

事業名	乳用牛改良推進事業費		
細事業名	優良乳用供卵牛選抜事業費	財務コード	058201
担当部課室	農政 部 畜産 課 生産振興 担当 (内線)	5263	

事業の概要

実施期間	始期 H5 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 畜産酪農技術センター長坂支所乳用牛群	その対象をどのような状態にして 供卵牛を選抜して、受精卵を供給する	結果、何に結びつけるのか 県内乳用牛の能力向上及び酪農家の収益向上
	<p>事業経緯・目的 海外から導入した、乳量が多く、乳脂肪等の高い牛乳を生産することの出来る乳用牛を、畜産酪農技術センター長坂支所(旧酪農試験場)にて、飼育し、子孫を増すとともに、子孫の牛乳を生産する能力に関する検定を実施し、総合指数(NTP:Nippon Total Profit Index)により、優良な乳用牛を選抜している。 選抜した乳用牛は、供卵牛(受精卵を採取する牛)として利用し、採取した受精卵は県内農家に供給され、農家牛群の改良を推進し、ひいては農家の経営安定化に寄与している。</p> <p>事業の内容 主にH28年度 事業内容 ・高能力乳牛の娘牛を基礎とした、畜産酪農技術センター長坂支所乳用牛群の管理増殖。 ・供卵牛を選抜、確保するための検定、調査の実施。 ・データ整理、情報提供</p>		
根拠法令等	酪農及び肉用牛生産の振興の近代化を図るための基本方針、家畜改良目標、山梨県受精卵移植推進協議会設置要綱		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	27年度	28年度		29年度	30年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 優良乳用供卵牛由来受精卵販売個数	38個	40個	33個	40個	40個	活動指標 目標設定の考え方 農家需要に基づき設定 データの出典等 受精卵売却実績
	活動指標達成率(実績値/目標値)	82.5 %				
成果指標 経産牛1頭あたり乳量	8,773kg	8,855kg	8,975kg	9,105kg	9,105kg	成果指標 目標設定の考え方 過去3年間の実績値に5%加えた設定 データの出典等 生産額実績、畜産統計
	成果指標達成率(実績値/目標値)	101.4 %				
決算額又は予算額 (千円) うち一財額	17,272 0		17,051 0	18,410 0	18,123 0	成果指標によらない成果
所要時間(直接分)	3,289 時間		3,282 時間	3,282 時間	3,282 時間	
所要時間(間接分)	時間		時間	時間	時間	
所要時間計	3,289 時間		3,282 時間	3,282 時間	3,282 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,145円×所要時間)	6,723		6,708	6,708	6,708	

これまでの事業の見直し・改善状況

平成26年度内部評価:見直し無し。

活動量と成果の判断(平成28年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定		活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H28年度活動指標の達成率	活動量に係る一次評価	
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定		成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること
H28年度成果指標の達成率	成果に係る一次評価	畜産酪農技術センター長坂支所において、優良な供卵牛を選抜し、採卵・販売することで、酪農家の牛群を改良し、H28年度の経産牛1頭あたりの乳量は目標を達成している。達成率は101.4%であることから、意図した成果をほぼ上げている。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成30年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
無	酪農経営の安定化を図るためには、乳用牛の能力向上により、優良な能力を持った乳牛を管理することが重要である。牛は1年1産であり、成長して乳生産を開始するまで2年以上かかるため、遺伝的に能力を向上させるには、多大なる時間を要する。 このため、畜産酪農技術センター長坂支所において、乳用牛群を管理増殖し、能力検定を実施することで、優良な能力を持った牛を選抜し、受精卵移植の技術を用いて広く県内に供給することは、県内乳用牛の能力向上及び酪農家の収益向上に寄与しているため、今後も継続的に取り組んで行く必要がある。	

・「以外の判断項目」の欄
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	アドバイザーからの指摘を踏まえ、今後、本事業と一体的に進めている「受精卵供給促進事業」と併せ、家畜保健衛生所や普及スタッフと連携した巡回等による優良乳用牛の普及推進を強化することで、今以上に受精卵の効率のかつ高品質生産および利用農家の拡大に向けた取組を実施していく。	m

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方角(平成30年度当初予算等での対応状況)

見直しの方角	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方角」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	優秀な供卵牛から採卵した受精卵を広く県内に供給することは、県内乳用牛の能力向上や酪農家の収益向上に寄与することから、高能力牛の増殖、選抜を行う本事業は継続して実施する。 事業効果をより一層高めるため、選抜した優良供卵牛の情報や受精卵移植により生まれた乳牛の乳量等をホームページやチラシ、普及スタッフなどを通じ、県内酪農家へ積極的にPRし、受精卵の利用を促進していく。

・見直しの方角は、「廃止」「一部廃止(施設については「譲渡」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること

自主点検シート(事業の内容及び所要時間)に関する附属資料

様式2

所属名: 畜産課

細事業名: 優良乳用供卵牛選抜事業

調査番号: 9

事業の内容を細分化した業務名	具体的な業務プロセス(手順)	業務の時期(フロー)	H28 所要時間 (h)	H29 所要時間 (h) A	H30 所要時間 (h) B	縮減等 B - A	具体的な業務の見直しの内容	見直しに至った理由等 (又は見直しなしの理由等)
1 乳用牛群の管理増殖	搾乳作業	毎日	1,791	1,791	1,791	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	牛体管理作業	毎日	746	746	746	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	繁殖管理作業	毎日	187	187	187	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	飼料調整作業	毎日	187	187	187	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	哺育作業	毎日	306	306	306	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
(小計)			3,217	3,217	3,217	0		
2 能力検定	牛群検定	月1回	25	25	25	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	搾乳性調査	年1回	10	10	10	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	体尺測定	年1回	10	10	10	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	体型審査	年2回	8	8	8	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	データ整理・情報提供	年4回	12	12	12	0		業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
(小計)			65	65	65	0		
3						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
(小計)			0	0	0	0		
所要時間 (計)			3,282	3,282	3,282	0		

(留意事項)

- 1 事業を細分化した業務名は、事務事業を構成する業務ごとに細分化し、その業務名を記載すること。
- 2 具体的な業務プロセス(手順)は、できる限り多くのプロセスを記載すること。
- 3 業務の時期は、業務のフローがわかるように具体的な業務プロセスごとに記載すること。(毎月、四半期ごとの業務等は、その1サイクルの期間を記載すること。)
- 4 各年度の所要時間(計)は、事務事業自主点検シートの「事業の目標、実施状況等」の「所要時間計」と一致すること。
- 5 具体的な業務の見直しの内容は、わかりやすく簡潔に記載すること。(県民から見て分かりやすい表現とすること。)なお、見直しがない場合は、「なし」と記載すること。
- 6 見直しに至った理由または見直しなしの理由は、詳細に記載すること。(具体的な業務プロセスごと、または細分化した業務ごとに記載すること。)
- 7 適宜、業務内容に合わせ、行を加除して記載すること。(複数ページ可)